

件名: 会長通信5年11月号 信頼感とは

会長通信 5 年 11 月号 信頼感とは

会社とは一体なんでしょう。会社は道具です。そうです会社は人を幸せにする為の道具です。人と人がトラブルなく仕事出来る基本は何ですか。そうです信頼感と許しです。それと人は命令では動かさないといつも言っていますが、命令で人を動かすと人は何も考えなくなります。その人も、その人が接する人も道具になります。道具になると感謝の念が湧いて来ません。するとまたまた会社は荒れて来ます。

信頼感とは絶対的信頼感です。自分自身と世の中との絶対的信頼感が無ければ人と人のトラブルが頻発します。私は 40 才の頃に内省研修を受けました。人は幼いころの生育歴が現在の自分自身に影響を及ぼしています。私は昭和 21 年に誕生しました。おそらく両親は食べるのにも忙しくて、ほとんどかまって貰えなかったのではないかと思います。どこかで心の中に寂しい風が吹いていました。一週間の内省研修を行い、して貰ったこと、してあげたこと、その中で学んだことを 0 歳まで調べました。またいろいろして貰った時に回りの人の思いはどの様であったかを調べました。その一週間を経過した後気づいたのは、絶対的信頼感です。生かされている私に気がつきました。自分と周りの距離が近くなり、人と人の信頼感が増したのです。いま社内でトラブルが起こっていますが、実はそれはあなたの生き方、考え方を改めなさいとのメッセージです。全ての自分の周りに起こっているさまざまな出来事は、全て自分から発しています。信頼を投げれば、信頼が返ってきます。不信を投げれば不信が返ってきます。この様なことを言っていると仕事の成果が出なくて良いのか。との声が聞こえてきますが、実は仕事の指示、指導をするときにまず信頼感を醸造しなければなりません。信頼感がなければ、どの様に仕事の指導を行っても相手には入りません。仕事はさせて頂いているのです。人は生かされているのです。何よりも深い感謝が必要です。深く感謝しながら指示を出すのです。感謝がない指示は相手に伝わりません。

仕事は何の為にしていますか。人の幸せの為です。幸せになるための道具が会社です。人が道具になってはなりません。それは政治も同じです。政治も道具です。そこに住む人たちの幸せを考えるのが政治です。当然会社も世の中から信頼感を獲得する必要があります。お客様に商品サービスをお届け出来るか出来ないかは信頼感の差です。信頼感を増せば営業は非常にしやすくなります。当然お客様のところに伺う人たちも人間力豊かでなければなりません。豊かになればなるほど営業しやすくなります。さて話を戻します。上司は部下に対して指示、指導をしなくてはなりません。

そのときに必ず相手の良さを探して下さい。嘘でも良いからどこか一つでも良いところを探して指導をお願いします。心の中に否定的な感情を持ちながら指導しても、相手は聞くことが出来ません。鏡の法則です。全てが自分自身が相手に映っているのです。相手の良いところをムリヤリでも探す。深く感謝する。信頼感を確立してから、部下と接して下さい。

「信頼関係のある意見のぶつかり合いはプラスに発展すると思うよ信頼関係のない意見のぶつかり合いはマイナスに発展すると思うよだから… まずは、『信頼関係』と言うものが大切なんだよ！」

「僕も『未熟者…』あなたも『未熟者…』みんな『未熟者…』だから、人をゆるせる人になろうよ』『チーム力を上げる努力をする』と言うことは『お互いがお互いを好きになってもらう努力、好きなる努力をする』と言うこと・・・岡本佳明

全ての人は長所と短所があります。長所ばかりの人はいません。短所をどの様に攻めても状況は良くなりません。チームは人と人が信頼感で結ばれ、同じ方向を向かなければ成立しません。是非良いチームを作ってください。会社は貢献する為にあります。この貢献は世の中だけでなく、働いている人たちが幸せ感じっぱいになる様に貢献して下さい。

注意する所は注意をする。直さなくてはならない所は勇気を持って言わなければなりません。しかしその時相手の良いところ、信頼感、感謝を心のなかに入れて行って下さい。注意しなくて、問題をそのままにすると、問題は更に大きくなってしまいます。

どうぞ人にもものを教えるとき、指示を出すときは上から目線ではなく、謙虚に素直に信頼感を重視して相手を尊重して行って下さい。役職はただの役割です。指示を出す人が偉い訳でもなんでもありません。たまたま役割なのです。再度言いますが自らの人間力を高めて下さい。生かされて生きているのです。仕事はさせて頂いているのです。信頼感を獲得して下さい。株式会社ほづみに入社した人々は必ず人間的に成長出来るようにしたいのです。お互いがレベルの高い人間を目指そうではありませんか。是非暖かみのある、笑顔の、信頼感のある会社を目指して行きたいと願っています。